

CASBEE[®]神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新業)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸テクノ・ロジスティックスパ	階数	地上4F
建設地	兵庫県神戸市西区見津が丘1丁目26	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	542 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年11月24日
敷地面積	27,462 m ²	作成者	仁尾 享平
建築面積	16,346 m ²	確認日	2021年11月30日
延床面積	62,475 m ²	確認者	仁尾 享平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.8

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 4.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.2	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
配慮の概要 建築物移動等円滑化誘導基準(望ましいレベル)を満たしている。	配慮の概要 建築基準法に定められた耐震性を満たす。	配慮の概要 周辺環境との調和に配慮。また、植栽により良好な景観を形成している。
その他の配慮事項 特になし		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
 (仮称)神戸テクノ・ロジスティックspark物流倉庫計画

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.31			3.1	
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音		床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.7	0.25	-	-	2.7	
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		事務室設計照度700lx		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-	3.8	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		ほぼ全面にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量		30m3/h人以上の換気量を確保		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室の設置		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				3.3	0.40	-	-	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		事務室は40VA/m2以上の電源を確保		4.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		福祉のまちづくり条例にて、移動円滑化経路の基準に対応		4.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高3.0m、十分な窓の設置		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		置執務スペースの1%以上のリフレッシュルーム+自動販売機を設		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上材の採用、水切りの設置		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数20年以上の仕上材を使用		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種にBの配管を使用、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高7.33m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.061	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	EPSの設置、OAフロア採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	EPSの設置、OAフロア採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.56	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.57	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		OAフロア、タイルカーペット、ロックウール化粧吸音板	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		分別が容易(躯体+軽鉄+仕上)、OAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1以下の断熱材を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場・駐輪場を十分確保し地域の交通不可抑制に配慮している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	